

## □ スクール・ポリシー

### (1) グラデュエーション・ポリシー（育てたい生徒像）

教育目標に基づき、卒業までに次の資質・能力を身に付けた生徒を育成する。

#### 【自主 “Independence”】

- ・課題を発見し、計画的に実行・改善できる力をもつ。
- ・失敗を学びに変え、粘り強くやり抜く姿勢を発揮できる。
- ・将来の進路やキャリアを主体的に構想し、挑戦し続けることができる。

#### 【誠実 “Sincerity”】

- ・多様性を尊重し、協働によって価値を生み出せる。
- ・公平性・規範意識をもち、責任ある判断と行動ができる。
- ・地域社会・国際社会に参画し、より良い社会づくりに貢献しようとする姿勢をもつ。

#### 【英知 “Intelligence”】

- ・言語力をはじめ、論理的思考力・数理的思考力・知的探究力を発揮し、文理を横断して新たな価値を創造できる。
- ・科学的な見方・考え方と人文社会的な視点を統合し、複雑な課題を多面的に捉え解決できる。
- ・ICT・AI活用スキルと国際理解を統合し、持続可能な未来を主体的に構想し発信できる。

### (2) カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）

グラデュエーション・ポリシーの育成を見据え、次の方針に基づいて教育課程を編成・実施する。

#### ①探究 × 文理横断

課題設定→情報収集→分析→発表を段階的に深化させ、探究成果を校内外に発信する文化を定着させる。

#### ②言語教育（英語・国語）強化

言語運用力を高め、論理的に考え表現する力を育成する。

#### ③ICT/DX の学び

GIGA端末・クラウド・AI・データ活用を通して、個別最適化と協働的学習を推進する。

#### ④国際理解教育・交流

TOKYO GE-NET20の特色を生かし、多文化理解と国際協働の学びを深化させる。

#### ⑤評価と支援

形成的評価と学習支援を一体的に行い、学びの改善を促す。

#### ⑥教科横断・文理融合の学びの推進

日常の授業において各教科の学びを関連づけ、文理双方の視点を行き来しながら多角的に課題を捉える力を育成する。

### (3) アドミッション・ポリシー（入学時に求める生徒像）

本校の教育理念・教育目標・グラデュエーション・ポリシーを理解し、次の姿勢をもつ生徒を求める。

- ・働きかけに応じて、自ら考え行動しようとする前向きさをもつ生徒。
- ・他者を尊重し、協働的に物事に取り組む姿勢をもつ生徒。
- ・英語やICT、国際理解に関心をもち、視野を広げようとする生徒。
- ・言語力や探究的な学びに積極的に取り組む意欲をもつ生徒。
- ・文理の枠を超えて学び、多面的に課題を考える意欲をもつ生徒。

□ 各教科・科目の指導の重点

- ①★各教科・科目を通して、「主体的・対話的で深い学び」の手法を取り入れた指導方法の工夫や校内研修及び教科会の定期的な実施により、明確な目標設定を踏まえた学力向上の取組を推進する。
- ②★生徒による授業評価や校内研修、授業公開等を活用して授業を改善するとともに、数学B（2学年）及び論理・表現Ⅰ・Ⅱ（1・2学年）、体育（1年・2年・3年）、総合英語Ⅰ・Ⅱ（1・2学年）における少人数・習熟度別・TTの授業を通して生徒の自学自習の徹底を図り、生徒が希望する進路の実現をできるよう、「確かな学力」を育成する。
- ③ICT機器を活用した授業や環境教育などに取り組むとともに、言語活動の充実を図り、図書館の活用やビブリオバトル等の実施により読書習慣を身に付けさせ、生徒のコミュニケーション能力を育成する。
- ④教科「人間と社会」等において、奉仕活動や道徳教育、キャリア教育及び国際理解教育を充実させ、社会の一員であるという自覚及びグローバル化した社会の中で未来を拓くことのできる資質を育成する。
- ⑤体力テストを意図的・計画的に実施し、結果を分析して、生徒の運動能力や体力の向上を促進するとともに、東京2020レガシーを学校2020レガシーとして昇華させ、次世代へと受け継いでいく。
- ⑥公民科をはじめ各教科・科目等での学習指導とともに、東京都や小平市の選挙管理委員会と連携して主権者教育を推進する。
- ⑦学習指導要領の示すところに従い、適切な指導計画を作成し、授業時数を確保する。
- ⑧自立活動を軸に各教科の学習課題と関連づけ、自己理解と行動調整を促し、見通しをもった学習参加や必要な援助要請ができるよう個別支援と振り返りを行う。